

## 自己評価報告書

平成 23 年 5 月 9 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20520040

研究課題名(和文)

清朝中国ムスリム学者劉智『天方性理』におけるマイクロコスモスと世界認識

研究課題名(英文) A Chinese Muslim Thought on Microcosm/Universe: in the Case of Liu Zhi's *Tianfang Xingli* written in the Early Qing Dynasty.

研究代表者

仁子 寿晴 (NIGO TOSHIHARU)

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・客員准教授

研究者番号：10376517

研究分野：イスラーム思想史

科研費の分科・細目：哲学・中国哲学

キーワード：宋学、イスラーム神秘思想、自然学、形而上学、身体論、存在論、理、性

## 1. 研究計画の概要

本研究は、清代初期に活躍した代表的な中国ムスリム知識人、劉智が著した『天方性理』を、宋学・明学といった中国の学問伝統、イスラーム思想、同時期に中国で流通していたイエズス会士の著作等を参照し、中国思想、科学史、歴史学、イスラーム思想の専門家が共同で読み解き、思想構造を把握したうえで、最終的に訳・注解を作成することを主な目的とする。そのために以下の諸点を研究計画に含めた。

(1) 『天方性理』五巻のうち巻一、巻二、巻四はすでに訳・注解を作成し、公表しているため、研究会において巻三と巻五の多角的読解を行うことで、巻三、巻五の思想構造を当時の学問状況と照らしあわせて炙り出していく。

(2) (1)で行った作業をもとに訳・注解を作成し、随時、当研究会が発行する『中国イスラーム思想研究』で発表していく。

(3) 随時、研究分担者は上記の訳・注解に資するため各々の専門分野に照らして狭くは劉智に関して、広くは中国イスラーム思想に関して考察する。

## 2. 研究の進捗状況

2008 年度は研究会四回、研究合宿(二泊三日)4 回を行い、通常の研究会で換算すると 16 回に及ぶ。当該年度はマイクロコスモスたる人間の生成を対象とする巻三後半各図説をそれぞれ検討するとともに巻三を総合的に検討し、訳および注解の試作を行った。

2009 年度は研究会 5 回、研究合宿(二泊三日)三回、訳注編集作業(一泊二日)を一回行った。通常の研究会に換算すると 16 回行ったことになる。当該年度はマイクロコスモ

スたる人間と世界を超える地平を論じる巻五を研究会にて精読し、その構造把握に努め、訳・注解の試作を行った。それとともに『天方性理』およびそれを取り巻く中国イスラームに関して、研究代表者および研究分担者、連携研究者が各自研究していたものを堀池信夫編『中国のイスラーム思想と文化』(勉誠出版)上で発表した。

2010 年度は研究会 9 回、研究会合宿 3 回(うち一泊二日が 2 回、二泊三日が 1 回)、訳注編集会議 1 回を行った。通常の研究会に換算すると 17 回に及ぶことになる。当該年度は若干積み残していた巻五の図説を前年度に引き続き検討し、その後、成果公開に向けて 2008 年度に試作した巻三の訳・注解の手直しを行った。その結果、巻三はほぼ『中国イスラーム思想研究』誌上で公開できる形に仕上がった。

## 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

「2. 研究の進捗状況」で述べたように、各年度、相当数の研究会を行うことで、本研究が対象としている劉智『天方性理』の巻三、巻五の思想構造はほぼ把握され、順調に訳・注解の試作および練り直しが行われている。また「1. 研究計画の概要」(3)の課題に関しては 2009 年度に『中国のイスラーム思想と文化』上で研究代表者および研究協力者が研究内容を公表し、各自の研究も順調に進んでいることが示された。

## 4. 今後の研究の推進方策

最終年度である 2011 年度には『中国イスラーム

思想研究』を発行し、前年度までに仕上げた巻三の訳・注解を公開するとともに、試作されている巻五の訳・注解を成果として公表できるレベルにまで練り上げる。巻五に関する成果公開は 2012 年度に『中国イスラム思想研究』誌上で行う予定である。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

①黒岩 高「中国ムスリム・コミュニティの形成と多様性」堀池信夫編『中国のイスラム思想と文化』(勉誠出版、2009 年) 19-30 頁、査読無。

②佐藤 実「イスラームと儒教の距離——中国イスラームの思想と歴史、王岱輿、馬注、劉智——」堀池信夫編『中国のイスラーム思想と文化』(勉誠出版、2009 年) 31-44 頁、査読無。

③青木 隆「李贄——思想言語を獲得したムスリム知識人の先駆——」堀池信夫編『中国のイスラーム思想と文化』(勉誠出版、2009 年) 45-60 頁、査読無。

④仁子 寿晴「中国思想とイスラーム思想の境界線——劉智の「有」論——」堀池信夫編『中国のイスラーム思想と文化』(勉誠出版、2009 年) 61-80 頁、査読無。

⑤矢島 洋一「元朝期東アジアのスーフィズム」堀池信夫編『中国のイスラーム思想と文化』(勉誠出版、2009 年) 81-90 頁、査読無。

[学会発表] (計 2 件)

①佐藤 実「中国イスラームの「釈疑」——布教とは別のありかた——」阪神中哲談話会第 388 回例会、於茨木市市民会館、2010 年 10 月 30 日。

②黒岩 高「「経師」と「回儒」——片思いの中華的ムスリム知識人たち——」平成 20 年度九州史学会大会、於九州大学、2009 年 12 月 14 日。